

片側性咬合平衡

平衡側は離開状態となり，義歯は作業側を軸として転覆力が働くようになる。そのため，片側で噛んでも義歯が転覆しないよう力学的に安定する顎堤上に臼歯を排列する必要がある。

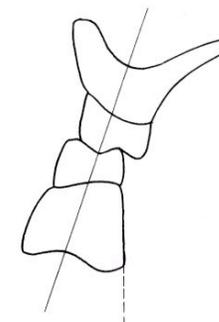
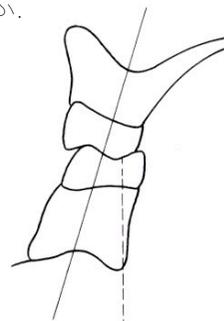
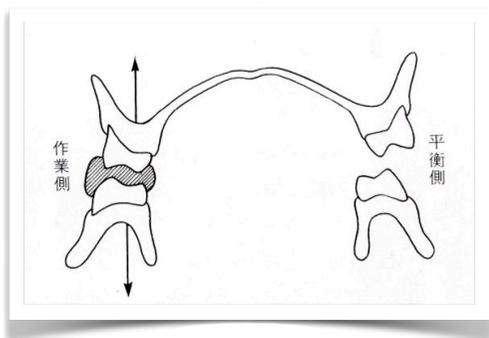
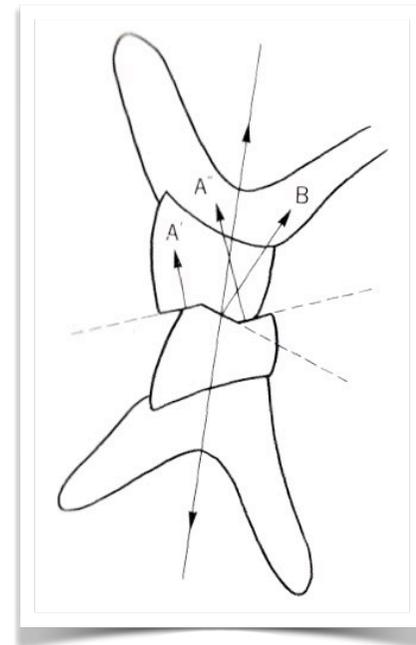
1. 歯槽頂間線の法則

第一大臼歯では，歯槽頂間線が下顎臼歯頬側咬頭内斜面の中央部(上顎舌側咬頭内斜面の中央部)を通るように位置づければ，咬頭斜面上に働く力(転覆力Aと維持力B)の合力は歯槽頂間線上を通過するようになり，片側性の咬合平衡が得られる。

フルバランストオクルージョンを採用する場合は，この歯槽頂間線の法則を基準として排列する。

交叉咬合排列

下顎臼歯は顎堤の舌側寄りとなって舌房を侵害し，上顎臼歯は頬側寄りとなって義歯が転覆しやすくなる場合，反対咬合に排列することが望ましい。前歯部は正常に排列されることから，小臼歯部で正常咬合と反対咬合の交叉部ができる。このような排列法を交叉咬合排列と呼ぶ。



第一大臼歯における歯槽頂間線と仮想咬合平面とのなす角度が 80° 以下となった症例に適用。

図5